

いきいきエデュケアー

— 子育て・孫育て —

くだけけ会代表

和田重良



いじろの手つなぎ

子どものあんしん、家族のあんしん

スマホばかり見てソッポむいてるお母さんだの、家族を責めてばかりいるお父さんがちよつと気がかりです。それってどこかジコチュウ（自己中心的）です。視野が狭いってことかな？

子どもがどうして「子ども」なのかって言うときまだ「おとな」じゃないからなのです。子どもは小さいおとなじゃあないってことは「教育って何だろう？」って考えたことがある人ならだれでも知っていることです。

人間のしあわせって何より「あんしん」を求めて生きるってことに由来しているのですね。だから、子どもや奥さん（またはご主人）を責めてばかりいたらその家庭はあまり「しあわせ感」がないでしょうね。だって「あんしん」していられないのですからね。

そんな家庭、家族があつたらぜひソッポを向かないでお互いに「よかったね」と言う愛言葉を実践してみてください。責めてばかりいる人も肯定されると不思議ともう少し深く自分を振り返ってみるようになるのです。責める人って、その先を考えることができないのですからね。相手のことを考えられないのですね。何よりこころの手つなぎは子どもの「あんしんのお薬」なのです。

こころの手つなぎ

幼稚園児がお出かけする時にはお母さんやお父さんやお婆さんやおじいさんと手をつなぎ、とてもあんしんできるのです。誰かと手をつなぐっていい気持ちなんですね。

若い恋人同士が手をつないでいれば気持ちを通じ合っ

- 2 -

ているよううれいしいのですね。あまり大人の友人同士で手をつないでいるのは見かけませんが、同じことをして本当はどこかで手をつないでいたいのかもしれませぬ。お年寄りの夫婦が手をつないで歩いているとほほえましい姿に見えます。でも、それって心が通じ合ってるっていうよりもたれ合って頼り合っているんですね。転ぶといけないから。

そうですね。「手をつなぐ」って頼りになるから「あんしん」なのです。だから「こころの手つなぎ」は「あんしん信頼」ってことの大事な要素なのです。

家庭や家族の中での子育ても共同生活も、仲間同士のコミュニケーションの大事な基本的要素は「信頼」なのです。

もちろん意見の違いや考えの行き違いはよくあるのです。だからケンカもいさかきもあります。子供を叱るっていう場面も当然あります。でも根本で「こころの手つなぎ」ができていけば、その中でお互いが成長しているのです。

子どもが育って行くっていう事は、成長していくにつ

れて「おとな」になっていくってことです。その基本はなんとと言っても「その子の『よさ』が引き出されていく人間関係」なのです。親子や夫婦や兄弟や三世代や、複雑な方が関係を深めていくことができます。心の手つなぎができていけば…。

さて、これから毎月「いきいきエデュケアー」と題してくだかけ流の「子育て孫育て」の提案をしていきます。くだけけの愛言葉「よかったね」「よく来たね」を頭にしっかりイメージしながらお読みください。引き出されていく「よさ」を生活の中の食や学びや遊びなどから場面ごとに「生活教育」のヒントとなることを書いていきます。よろしく願います。

一口メモ

- 一つ自分を拡げてみよう
- 子どもの姿や成長がよく見えてくる
- こころの手つなぎを忘れぬように

- 3 -